



# 子どもの孤立 切れ目ない仕組みを ～松戸市子ども・若者の支援を考える会～

## ●年齢・所属の変化で支援が途切れ、孤立する若者

松戸市子ども・若者の支援を考える会(以下、本会)をはじめたきっかけは、家族や学校・職場など社会に頼れる人がおらず、暮らしに困る若い大人にたくさんお会いしたことでした。

たとえばCoCoでは、軽度の知的障害や発達障害から家族や社会になじめなかった人や、精神科に通院した後にはじめて相談につながった人。学校では、不登校のまま卒業・中退し、その後もひきこもりの暮らしをしてきた人。児童福祉の現場では、虐待や家族との折り合いが悪い家庭で育ち、18歳を超えて児童の支援が終了した人・・・所属や年齢が変わって支援が途切れ、孤立してしまう現状を目の当たりにしてきました。まるで、壊れた橋から川に落ち続けているのに、おぼれた人を助けるのに必死になっているようで、ずっとくやしさとやるせなさを感じてきました。



## ●分野を超えて支援団体がつながり、協働の取り組みを開始

そのくやしさに共感した松戸市内の子ども・若者支援の仲間とともに、切れ目のない支援を目指して2018年9月に本会を結成。子ども・若者の支援団体が顔を合わせる機会づくりを目的に、第1回シンポジウム『分野を超えて広い連帯を』(H30/10/27)を開催しました。

千葉県「子ども・若者育成支援推進法」、千葉市「子ども・若者総合相談センターLink」のご担当の方々よりご公演いただき、松戸市内の14団体が活動報告を行いました。児童養護施設の子どもが就労支援を利用するなど、具体的な取り組みにもつながっています。



千葉県  
県民生活・文化課  
横田さん



参加人数  
60名



子ども・若者  
総合相談  
センターLink  
平田さん



## ●不登校・児童養護施設の経験者と、大人に頼れる理由を語る

第1回ではじまったつながりを生かして、わたしたちはなにができるのか。実際に不登校・児童養護施設入所を経験した人の語りをきっかけに、地域の現状を見える化することを目指して、第2回シンポジウム『私が大人に頼れた理由』(H31/3/22)を松戸市子どもわかもの課との共催で開催しました。

CoCoの相談者の方に当時の経験を語っていただき、児童養護施設・自立援助ホーム施設長の方からのご公演を踏まえて、関係者とともに意見を交わしました。相談者が子どもの頃に何ができたのか、悩み苦しみながら考える関係者の姿が、今後も試行錯誤が必要な現状を表していました。



参加者数  
80名



松戸市子ども  
わかもの課  
藤谷課長



生活クラブ風の村  
児童養護施設  
はぐくみの社  
高橋施設長



経験者の方と  
CoCoの桑田  
で対談



松戸市内  
支援団体の  
ディスカッション

## 参加者の声(第2回当日配布のアンケートに基づく)

- しんどい思いをした時期のことを思い起こしたり、話をしたりすることで精神的にとっても大変な状態になることもあるとは思いますが、とても明快にお話されている姿は胸に残りました。「本人が語る」ことの意義はとても大きいものだと常日頃感じています。(相談員)
- それぞれの機関が何ができて何ができなくて何が足りていないのか。機関と機関の溝はどうなっているのがもう少し見えてくると良かったと思います。(弁護士)
- 各団体の専門性や強みを活かすこと、弱みを克服すること(=連携)が大切だと思いました。(福祉企画担当)
- 学校関係の方に来ていただいたら、もっと違う切り口での話が聞けたと思います。(相談支援専門員(児童))
- 現代社会の子ども・若者の生き辛さについて、家族を含む社会のあり方、制度など実践活動をわかりやすくお話しいただき有意義でした。(看護師・元看護系大学教員)
- 切れ目ない支援の切れ目について、連携を構築する目的で研修があると良い。例：就学期：教育研究所を巻き込んだシステムづくり。中卒後：若者支援へのつなぎ。等。(行政職員)

## 企画委員より

普段子どもや若者とかかわりから身近な大人や社会がすこしでも子ども達の今を理解し、耳をかたむけ、近寄れればと思っています。実行委員会で今を共有し、ゆるやかなつながりを広げていければと思います！

NPO法人さんま 石川静枝さん

若い人たちが「世の中ってそんなに悪くない」と思えるような、そんな気持ちで日々活動しています。この実行委員会はできたばかりですが、同じ松戸市でフィールドは違えども同じ志を持つ仲間に出会えて心強いです！

NPO法人ユニバーサル就労ネットワークちば  
鈴木由美さん